

## ティーチングポートフォリオ

短期大学部生活文化学科

松尾 広

### 1. 教育の責任

#### 教養科目および教職科目

| 授業科目                            | 学部・学科・専攻                                | 備考        |
|---------------------------------|-----------------------------------------|-----------|
| 情報処理Ⅰ・Ⅱ                         | 生活文化学科食物栄養学専攻                           | 教養科目      |
| 情報処理Ⅰ・Ⅱ                         | 生活文化学科子ども生活専攻                           | 教養科目・教職   |
| 教育・保育方法論                        | 生活文化学科子ども生活専攻                           | 専攻科目・教職   |
| 生活文化各論                          | 生活文化学科食物栄養学専攻<br>生活文化学科子ども生活専攻          | 基幹科目      |
| スタディスキルズ                        | 生活文化学科食物栄養学専攻<br>生活文化学科子ども生活専攻          | 教養科目      |
| 食生活支援論                          | 生活文化学科食物栄養学専攻                           | 資格支援科目    |
| 情報基礎学                           | 家政学部服飾文化専攻<br>家政学部健康栄養学専攻<br>美術学部美術表現学科 | 共通教養科目・教職 |
| 教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。） | 家政学部服飾文化専攻<br>家政学部健康栄養学専攻<br>美術学部美術表現学科 | 教職        |

### 2. 教育の理念

情報処理、情報基礎学においては、Society5.0の時代に向けて、ICTを活用できる力をのばすこと。情報活用能力は言語能力、問題発見・解決能力と並んで、学習の基盤となる資質・能力として位置付けられている。

ICTは著しいスピードで発達を続けており、現在標準のOS、アプリケーションの操作方法の知識はあっという間に陳腐化するが、コンピュータで文書を作成するときの作法、データを操作する順序、プレゼンテーションのまとめ方、必要な情報をどう探すかといった基本の基本については卒業後も役立つもので、身につけて、応用して、活用して、能力を更新し続けられるようになってほしい。

### 3. 教育の方法

各自が ICT を使いこなせるようになることを目標に授業を行う。情報処理の基本の基本として、Microsoft Office の基本的な使い方の修得を目指している。ビジネス文書・レポートなどの文書作成、データの加工や可視化、プレゼンテーションの組み立てやスライド作成、ごく簡単なプログラミングなどについて、各自 PC を使って授業に取り組む。教材の提示やレポートの提出はオンライン（Google Classroom）で行い、例題の解説と練習問題の解答を繰り返して知識の定着を図る。

#### 4. 教育の成果

本学では Google Workspace を採用し、授業だけでなく、各種連絡やアンケートなどにも利用しており、ICT の利用は日常化した。学生のレポート作成、成果の発表などに Microsoft Office は日常的に使われており、ある程度まとまりのある文書・レポートが作成でき、プレゼンテーションをそつなくこなすことができていると思う。

#### 5. 今後の目標

##### 1) 考えるのを助けたり、考えをまとめるための ICT 利用

教育現場での ICT 利用についてよく言われているように、情報検索で知りたいことが見つかりとレポートにそのまま情報を張り付けたり、わかった気になったりして、それ以上考えを巡らせなくなりがちである。生成 AI の利用も扱うようになったが、読みやすくてもっともらしい答えを出してくれるので、それが一層助長される恐れがある。

ICT の利用について、高校までに学んできた使い方以上に有意義な活用ができるように、何かを考えるのを助けたり、得た情報を咀嚼し考えをまとめたりするための道具立てとして扱うような教材の組み立てについて考えていきたい。

##### 2) 個別最適な学びに向けて

情報処理や情報基礎学は一人ひとりが情報活用能力を身につけることを目指しているが、授業そのものは一斉授業の形式で行っている。しかしながら個人の能力差が大きく出ており、学生の授業への取り組み方に講義以上に個人差があるように感じているが、具体的な対応策を見つけれないでいる。

情報処理や情報基礎学の授業でやっていることは、個別最適な学びと整合性が良い。一人ひとりの能力に合わせた教材を確実にこなすことで、主体的に学べて達成感が得られやすい（やらされている感を減らせる）と考えられる。部分的にでも取り入れられないか、工夫したい。